

■DHまんこ生中継種漬け墮とし

日々、超災害や超犯罪に立ち向かう機動救急警察ドライブヘッド。
そんなドライブヘッドの女性メンバーが、謎の組織によって拉致された。
密室で何十人もの男たちに監禁され、股間にローターを捻じ込まれる宗像たち。
先日の催淫ウイルスで全員が強制的に発情させられる中、いくつものカメラがその姿を捉える。
ドライブヘッドの女性陣が陵辱されるのを、全世界に生中継しようというのだ。
更に視聴者参加型の企画まで用意されており、男たちのみならず全世界によるDH女性陣への公開陵辱が開始される……

【さあ、ゲームの時間が始まるぞ！】

【リモコンで、みんなの好きなドライブヘッド女性メンバーを選ぶんだ！】

テレビや動画配信サイトをジャックして行われた陵辱生中継。
早速 アンケート等の機能を利用し、女性陣への投票が行われる。

「あ、あなたたち♡ どういうつもりなの♡」

捕らえられた女性たちの中でも一つ抜けた美貌とプロポーションを誇る、宗像 亜里沙。
ローターを入れられ、催淫効果で僅かに性感を得てしまいがらも犯人たちに訴える。

【ああ、お前らを映して投票させてんだよ。視聴者……世界中の男たちが、お前から好きな一人を選んでんだよ】

【で、投票の数に応じてローターが震動する仕組みになってるってわけ】

「なっ……それじゃあ……」

【投票されればされるほどローター責めに遭うことになるな。

逆に言えば、世界中の男たちは鬨りたい相手に投票してんだよ】

【何万票集まるか、愉しみにしとけよ〜♪】

「っ……！」

やりとり間にも、次々と女性たちに投票されていく。
石野ミコト、新門めぐみ、そして宗像亜里沙の三人は特に票が多く、
端正な容姿が裏目となって自分たちを追い込むことになっていた。
まだまだ入れられていく票数に、犯人たちが嗤いながら

【宗像チーフ、ズバ抜けて票が入ってんぞ。何かコメントしろよ】

カメラが宗像をズームで映し、その肉感……衣装がはちきれんばかりに突った爆乳、むちむちと脂の乗った太股と尻肉、
任務のための服にも関わらずなぜか露出した胸元と腹部……それらがまじまじと公開される。
官能的な肉体が映され、即座に投票数に影響が現れていく。
宗像からすれば視姦されているのも同然であり、自分の身体が公開されること、
それをモニター越しの男たちが愉しんでいるのを感じると、催淫で発情した肉体が勝手に熱を込み上げてしまう。

「や、やめなさいっ！ 映さないで♡ みんな……お願いっ♡ もうこれ以上、投票しないでえっ♡」

【イヤがってるフリして盛ってんじゃねえよ！】

おい画面の前のお前ら、聞いたか今の声！ このスケベ女、自分の身体を世界中継されて発情してんぞ！】

【まあこんなカッコしてるくらいだからな。視姦されるのが本望なんだろう】

「好き勝手言わないで！ あ……っ♡ さ、触らないで……ひいいっ♡」

反論するが、不意に胸を触られて嬌声が漏れる。
胸も催淫効果により十分に発熱しており、顔ほどもある豊かな胸乳に指が食い込むと それだけで強い性快楽を得てしまうのだ。
当然 今の愛撫と喘ぎも放送されており、また宗像の投票が他の女性たちよりも急速に増加していく。

【おいおいどんだけ伸びるんだよ。こりゃ投票終わった時が愉しみだなあ？】

「くっ……ふうう……っ♡」

（こんな屈辱っ♡ 救助されるまでなんて待てないわ……♡ 何とか隙を見つけて、反撃しないと……身体が、保たない……♡）

屈辱なことに罵られるほど性感、性欲が増していくが、反抗の意志も同様。
宗像は快樂に弱ったフリをし、密かに反撃の機会を窺うのだった……



【さて、そろそろ投票終わるぞ。三、二……】

カウントダウンと共に投票が終了。全世界の男たちに入れられた票が集計され……
トップ3の内、二人はミコトは新門。そして一位はやはり宗像であり……なんと入れられた票数は十億を超えている。
有り得ない票数に宗像は絶望し、犯人たちは声を上げて嘲笑う。

【おい宗像チーフ！ あんたエロすぎてバカみてえな票稼いでんぞ！】

「なっ……！ こ、こんな数、ありえないわ！」

【一人で複数のアカウント使うヤツが大勢いたんだろ。まあ安心しろ、本当に十億回もローター責めなんかできねえからな】

犯人たちは莫大な数の票が来ることは想定済みだったようだ。
何やら別の道具を持ち出すと、カメラに向かって宣言する。

【お前ら投票ありがとな！ 今から票の数に応じてローターを震動させるんだが……
この三人は票が多過ぎるからな。票数は大幅に減らさせてもらう。その代わり……】

【催淫薬を更に注入して 減らした分だけ感度を上げるから安心してくれえ！】

「っ？！ な、やめなさいっ！ つくうう……っ♥」

「やめなさいっ！ 離してっ！ あ……っ♥」

「いやあっ！ もうあんなもの使わないでえっ！ あああっ……いやあああっ♥」

ローターでの刺激回数が現実的なものに下げられる。
しかし受ける快樂を票数と同じにするためか、催淫薬によって感度を上げられる。
宗像、新門、ミコトと薬を注入され、即座に性感が急増。
最初は多少 発情させられても ただのローター責めなら……と侮っていたが、
今なら軽く触れられただけでも絶頂してしまいかねないほどに昂ぶってしまった。
あまりの興奮に絶望を覚える宗像。そんなことを気にも留めず、犯人たちはローターのスイッチを持ち……

(こ、こんな状態でローター責めなんてっ♥ そんなの……♥)

【んじゃそろそろスイッチ入れるぞー！ さーん、にーい、いーち……】

「やだああっ♥ お願いっひどいことしないでええっ♥」

「やめなさい♥ やめなさいいっ♥」

「やめてっ♥ こんなバカげたことっ♥ 今すぐ……」

ブツブツブツブツブツブツブツブツブツ

「いやああああああああああああああああああ♥♥♥」

「あっひいひい——っ♥♥♥」

「くほおっ♥♥♥ おっほおおおおおおおおおおおおおおおお♥♥♥」

合図と同時に、膣肉の中で小さなローターが凄まじく震動。
ローターも特に震動が激しいものを選んでいるのか、一瞬で数十以上の刺激を繰り返す。
その数十……ノルマの1%に満たない責めに、理性の堰が崩壊。
ほぼスイッチオンと同時に、全員揃って派手な 仰け反り潮噴き絶頂 を全世界に晒してしまう。

【んおおおっ♥♥♥ おをっほおおおおおおおお♥♥♥】

【おいおい即イキかよ！ ドライブヘッドも大したことねーなあ？！】

【今のアクメ姿も即行で画像化されて二次配信されてんぞ。視聴数もバカみてえに伸びてやがる】

【こりゃ もう二度と外に出られねえな！】

(ひ♥♥ 酷いっ♥♥ 辱められる姿を……♥♥ 他の男たちも愉しんでるなんてえ……♥♥)

票を入れるだけでなく、世界に公開された痴態を無数にコピーされてバラまかれる。
絶望的な状況とそれに見合う快樂責めに、宗像の中の反撃しようという強い意志は容易く吹き飛ばされていた。

【どうなんだローターの感触は？ 全世界に白状しろ！】

「んむんんっ♥♥♥ んおっ♥♥♥ お♥♥♥ んんんおおおおおおおおお♥♥♥」

【聞いたかお前らー？ 気持ち良すぎてイキまくりでまともにしゃべれないってよー】

【おいおい大丈夫かよ、これからローター追加すんだぞ？】

声を抑えようとしたが、裏目に出て無様な牝哭きになってしまう。
嘲笑われる中、犯人たちは更に宗像に対しローターを追加していく。

(そんなっ♥♥ もう限界なのに♥♥ これ以上の刺激なんてえっ♥♥)

ヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴヴ♥♥♥

「んをおっ♥♥♥ おおおおおおおおおおおおおおお♥♥♥」

膣の中に三つ足され、更に乳首と谷間にも貼り付けられたローターが一斉に震動。
既に限界に達していた宗像は大きく開いた唇から唾液を散らし、獣そのものの大声で快楽を啼き叫ぶ。

【痴女なだけはあるな、世界中継だつてのにアへ顔晒してやがる】

「おおおおっ♥♥♥ んんうっ♥♥♥ んんおおおおおおおおお♥♥♥」

もはや全世界公開だろうと なりふり構ってられない。
反抗の意志が折れた宗像は、ただただ快楽の苦悶を訴えるのみだ。

【がんばれがんばれ、そろそろローター責めが終わるからよー】

「ふうううっ♥♥♥ うっ♥♥♥ うううう……………っっ♥♥♥」

時間にすればそう長い時間ではないのだが、宗像にとってはあまりに膨大な責め。
それがようやく終わり、絶頂の余韻が全く冷めやらないものの深く息を吸い込んで安堵する。

(お…………♥♥♥ 終わったの…………?♥♥♥ これで♥♥♥ ようやく…………♥♥♥)

【っしゃ お前ら、ここからが本番！ お待ちかねの輪姦配信だ！！】

「っっ?！ り、りんか…………っっ♥♥♥」

【ローターぐらいでへばってんじゃねえ、ここまで来てやらねえわけねえだろ！】

【全世界中継で孕むまで種漬け配信するんだよ！】

【ていうか輪姦って聞いてまた腰浮かせてんじゃねえよ！ どんだけ淫乱なんだこの女！】

しかし安堵も束の間、最悪の行為を宣言される。
悍ましい事態に恐怖するが、その恐怖さえ蹴散らす期待と興奮が全身を駆け回り、
疲弊した膣肉と子宮が再び燃え上がってくる。

【おら見ろよ、これでお前の淫乱マンコを孕ませてやるからよお！】

「ひいっ♥♥♥」

(なっ何なのこのチンポっ♥♥♥ 大きすぎるっ♥♥♥ こんなので犯されたら…………♥♥♥)

犯人たちが揃って男根を見せてくる。催淫効果が彼らにも作用しているのか、全員が凄まじい巨根だ。
すぐに熱と雄臭が頬に伝わり、ただでわかる硬度と精力が暴力的な絶倫さを物語る。
こんなものに犯されれば、これまでにない絶頂はもちろん……快楽に堕ちてしまうことも十分に有り得る。
これから始まる惨劇を期待し、また一つ子宮が脈打った。

【さあいくぜ、投票一位の淫乱マンコを孕ませてやらあ！】

「ま…………♥♥♥ 待って♥♥♥ それだけはやめなさいっ♥♥♥」

【ほお…………? 期待しまくってるくせに強がりやがって。なら仕方ねえ、先に他のマンコから種漬けてやれっ！】

「あっ…………な、何を…………♥」

「いやあっ♥♥♥ 輪姦なんてダメなおおっ♥♥♥」

「わ、わたしはいいから、ミコトちゃんは…………ひっ♥♥♥ 待ちなさい♥♥♥ せめて挿れるのだけは…………♥♥♥」

「そっ……そんなことないわ♥ それより……みんなを早く解放しなさい♥」

【ああ？ お前が拒否ったせいでお前狙ってたヤツらが他にいったら】

【ま、お前がマンコ使わせてくれるなら他が孕む確率は減るだろうがな】

「わ……私が……っ♥」

(私が、このチンポたちに犯される……♥♥ そんなの嫌っ♥♥ 気持ち良すぎて……♥♥ おかしくなるに決まってる♥♥
でも♥♥ そうしないと♥♥ みんなの負担が……っ♥♥)

自分が犯されなければ、他の女性たちが更に犯される。みんなを守るためには身を捧げなければならない。

——犯される大義名分ができ、牝としての本能が揺らぐ。それでも、やはり自ら陵辱を受け入れるのは躊躇してしまうが……

【おら早く言えよ『犯してください』ってよお！ じゃねえとまたあいつら孕ませるぞ！】

「ふほっ♥♥ クリ♥♥ やめええええっ♥♥」

犯人がダメ押しに 怒鳴って迫りながらローターでクリ責め。

快楽に後押しされ、宗像の理性が一瞬崩される。

(気持ち良いっ♥♥ おちんぼ欲しいっ♥♥ ああっ違うのっ♥♥ みんなを守るために♥♥ 仕方なくっ♥♥)

「す………好きに しなさい……♥」

【最初っからそう言やいいんだよこの淫乱がっ！】

ずっぽおおっ♥

「ふっぽおおお——っ♥♥♥ これはあっ♥♥ 仕方なくっ♥♥ 誰がっ♥♥ こんなちんぼなんかかいてっ♥♥」

【強情な風に取り繕ってもチンポが受け入れたのは変わんねえんだよ！

まあ無理矢理も悪くねえけどな……せいぜい強がって愉しませてくれよお？！】

ずりゅんっ♥♥ ずぶりゅうっ♥♥

「おほおっ♥♥ それはっ♥♥ あなたたちが仕向けたからっ♥♥

くひいっ♥♥ んぎひいひい——っ♥♥」

嫌悪すべき……しかし内心では待ちに待った巨根で貫かれ、焦らされた分も含めた快楽で一気に絶頂。

残ったプライドと意地で言い返すが、巨根を捻じ込まれて あられもない叫びを上げる。

絶倫巨根の威力は想像を遥かに超え、ローター責めなど比にならない。

一つピストンされるたび、宗像は結合部から牝液を噴いて絶頂級の快感を味わい 続けていることを示してしまう。

(寝過ぎるっ♥♥ ちんぼっ♥♥ ちんぼおっ♥♥ おまんこがおかしくなってるっ♥♥

こんなに気持ち良いなんてええっ♥♥)

宗像も経験がないではないが、今の快感、陵辱による被虐愉悦は過去のどんな経験をも凌駕する。

圧倒的すぎる背徳の肉悦に、レスキューとしての使命を忘れ 受け入れたことを後悔しそうになるほどだ。

【へへ、どうだあこのチンポの味はよお？ 素直に言ってみろよっ！】

「おふっ♥♥ ぐふううっ♥♥ た、大したことないわっ♥♥ こんなものっ♥♥ 全然っ♥♥」

ごづうんっ♥

「んああああああああっ♥♥♥ 奥っ♥♥♥ 子宮にいいいいっ♥♥♥」

【善がってるようにしか見えねえけどなあ？ 物足りねえってんならもっと激しくしてやらあっ！】

抵抗したつもりが、更に雄欲を煽ってしまう。

本格的に攻勢に出た巨根に子宮を連打され、顔を左右に振って懸命に快楽を否定する。

「こんな♥♥ こんなもの♥♥ こんなっ♥♥ ちんぼおっ♥♥」

【チンポがなんだよ言ってみろっ！

折角ハメ撮りしてやったんだ、てめえのマンコがどうなってんのか全世界に説明しろやっ！】

「いやっ♥♥ 見ないで♥♥ 撮らないでえっ♥♥ こんなの♥♥ たいしたことっ♥♥ だからっ♥♥ ハメ撮りやめてえっ♥♥」

犯人がカメラで撮影することに意識が向いたからか押さえる手に力が抜け、悶える内に体勢が変化。

四つん這いになって抜け出そうとするが、そのままバックの体位で犯され続ける。

「いや♥♥ あ♥♥ うひいっ♥♥」

【おいデカ乳が見えねえだろが！ 獣みてえな声出してるクセに往生際悪いな……
まあいい、素直にならねえなら本気でイかせてやらあ、覚悟しろよっ！】

ずごおんっ♥ ごづうんっ♥

「おをひいっ♥♥♥ 子宮がっ♥♥♥ 潰れええっ♥♥♥」

今までは加減してたとでもいうのか、肉突き的威力が急激に増加。
子宮が潰れんばかりの凶悪な肉抉り。本気でイかせるという言葉にたがわぬ暴力的肉悦に、宗像は意識が飛びそうになる。

(今までよりももっと凄いつ♥♥ こんなっ♥♥ 有り得ないっ♥♥
意識が飛ぶっ♥♥ 壊れるううっ♥♥)

【おらっどうしたよ宗像チーフ？ さっきまでみてえに強がってみろやっ！】

「あぐうっ♥♥ ああっ♥♥ ああへええっ♥♥」

(こんなのダメっ♥♥ こんなのっ♥♥ 凄くイかされるっ♥♥

嫌っ♥♥ こんなイかされ方っ♥♥ 嫌ああっ♥♥)

あまりに極悪な快樂責め。

このまま相手の思い通りのイかされ方をすれば、自分というものが壊されてしまうのではないかという予感さえしてくる。
強い危機感に駆られ、宗像は蕩けた牝貌をカメラに晒しながらプライドも投げ捨てみともなく足掻き続ける。

「ああっ♥♥ あああっ♥♥ いやっ♥♥ いやいやいやいや……いぎひっ♥♥ いやあっ♥♥ こんなのいやああっ♥♥」

【せいぜい抵抗しろや！ 本気のガチイキ配信してやるからよ！ おらいけっ！ イけっ！ 全世界の前でイキ晒せえっ！】

「うああああっ♥♥ イッ♥♥ あっう♥♥ いや♥♥ いやなのおおっ♥♥ いやいやいやいや……………っっっ♥♥♥」

(もう……………♥♥♥ ダメえ……………♥♥♥)

体験版はここまでです。続きは製品版で！